

デトックス・プロジェクト・ジャパン ご支援のお願い

合成化学農薬（以下、農薬）を使った農業は特に第二次世界大戦後以降、世界中で拡大しました。農薬を使用すれば少しでも「手間のかからない農業」が可能になるとして、急速に広まったのです。

しかし、その広範囲にわたる使用によって、虫や鳥、さらには微生物叢にも大きな変化が現れ始めました。生物多様性が激減し、植物の受粉に欠かせないミツバチも急速に減って農業生産にも懸念が広がるなど、世界の生態系に重大な影響が出ています。そして近年では、子どもの発達や大人を含む慢性疾患の急増など、人間の健康にも影響が出始めていると考えられています。

このような事態を受けて、有機農業・アグロエコロジーはアジア、アフリカ、ラテンアメリカで急速に広まり、その担い手はこの20年間で15倍以上に増えています。また、国連などの国際組織も2013年に農薬に頼らないアグロエコロジーの推進を決めました。さらに米国ではグリーン・ニューディール政策、EUでもグリーンディール政策「FARM TO FORK（農場から食卓まで）戦略」が打ち出され、環境を守る農業へと大きく舵が切られています。それらを受けて、2021年、日本でも、2050年までに農地の25%を有機農業にする「みどりの食料システム戦略」が発表されました。農薬を減らすことは今、世界の共通課題となっているのです。

しかし、一方では日本の農薬規制緩和が止まらず、農薬使用量は増加の一途をたどっており、農薬残留量の高さゆえに日本産の農産物が輸出できなくなる事態まで起きています。

わたしたちは、生態系、そして人びとの健康、地域の農業を守るためにも、可能な限り、農薬に頼らない日本の食のあり方をめざす必要があると考え、まず、わたしたちの体内に入った農薬を調べるデトックス・プロジェクトを2019年5月に始めました。そして、これまでの検査から、農薬がわたしたちの体内だけでなく、生活のすみずみまで広がっている実態がわかってきました。

わたしたちは農民、市民、消費者、生協などによるさまざまな団体・個人からなり、市民が横につながる共同プロジェクトとして、このデトックス・プロジェクトを運営しています。これからも、生産者団体、市民団体、地方自治体、国の関係者などと協議を続けながら、危険性の高い農薬の使用を具体的に減らしていくことにより、より健やかで安全な世界をめざしたいと考えます。

DPJの取り組み

- 体内のネオニコチノイド系農薬やグリホサートの残留農薬の計測
- 食品や水など、生活環境中の残留農薬の計測
- わたしたちを取り巻く農薬の現状を知らせていくこと
- 農薬を減らすための研究、学習会活動
- 2021年末から開始した政府による農薬再評価への提言活動
- 地方自治体での農薬規制に向けた提言活動

活動を支えてくださるカンパを募集しています

ゆうちょ銀行口座名：デトックスプロジェクトジャパン

記号：10950 番号：31046321



Detox Project Japan

農薬を減らし健やかで安全な世界へ
<https://detoxprojectjapan.jimdofree.com/>



共同代表：山田正彦、天笠啓祐、印鑰智哉
顧問：木村-黒田純子環境脳神経科学情報センター副代表・医学博士